



日本羽毛製品協同組合

日羽協ニュース

[編集発行] 日本羽毛製品協同組合

[事務局] 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

第19回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催。

9月1日(日)から9月3日(火)にかけて、「北海道定山溪温泉万世閣ホテルミリオーネ」にて、第19回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催いたしました。主催国日本から日本羽毛製品協同組合加盟社および関係者61名、中国から中国羽絨工業協会関係者77名、台湾から台湾区羽毛輸出業同業公会関係者43名、合計181名が参加し、情報交換や市場報告が行われました。

2日の会議では、日本羽毛製品協同組合の柳場弘理事長、中国および台湾の各組合の理事長による挨拶の後、各国から羽毛市場についての報告があり、日羽協からは日本における羽毛製品市場の現

状や現在抱えている問題点を説明いたしました。

昨今の羽毛原料価格の高騰、供給不足が大きな問題になっている状況下ではありますが、懇談会、懇親パーティー会場の時はもちろんの事、期間中は、中国、台湾の主要羽毛原料メーカーから直接情報を得られるまたとない機会として、積極的な情報交換が行われました。

日本羽毛製品協同組合
柳場 弘 理事長中国羽絨工業協会
姚 小蔓 理事長台湾区羽毛輸出業同業公会
陳 焜耀 理事長

羽毛製品講習会を開催いたしました。【羽毛ふとんの知識啓発事業】

平成25年度消費生活講座「羽毛製品全般について」 (京田辺市消費生活相談室)



6月20日(木)京都府の京田辺市消費生活相談室の依頼により、羽毛製品講習会を実施いたしました。会場となった京田辺市立社会福祉センター第一研修室には、一般消費者の方が29名集まり、DVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の東洋羽毛工業(株)佃光明氏、(株)ゲートン出口雅昭氏、カネヨウ(株)水田真

氏による講習の後、質疑応答が行われました。

講習会の後7月2日には、主催の京田辺市消費生活相談室から礼状が届き、同封されていた書面には、「羽毛ふとんの選定基準がわかりやすかった」、「手入れの方法がわかってよかった」「次回、羽毛製品購入時の参考になる」、「今まで知らなかったことが良く理解できた」等、参加者からの感想をいただき大変好評でした。



羽毛製品アドバイザー派遣を行っております。

日羽協では、消費者関係機関等において、消費者の皆様を対象として実施されている消費者講座などに、「羽毛製品アドバイザー」を派遣し、「羽毛製品の正しい知識、選び方、取扱い方」などの疑問にお答えすると共に、羽毛製品を正しくご理解をして頂く活動を実施しており、既に参加された受講者の方々から好評頂いておりますので、是非ご活用くださいますようご案内申し上げます。

平成25年度第2回苦情処理研究会 (京都府消費生活安全センター)

7月16日(火)京都府消費生活安全センター主催による苦情処理研究会に、羽毛製品アドバイザーを派遣いたしました。会場となった京都テルサ東館3階D会議室には、府内市町村および府広域振興局の消費生活相談担当者18名が集まり、正絹羽毛ふとん(株)立花功氏、(株)イワタ堀田康夫氏、西川ローズ(株)上山清和氏による講習が行われました。

生活相談の実務担当者による苦情処理研究会の中のミニ講座として開かれた1時間30分の講習では、羽毛の知識DVD放映にはじまり、展示品(羽毛ふとん、ダウンジャケット等)の見学、立花アドバイザーによる羽毛製品のお手入れについての講演と続き、質疑応答では消費者行政の現場担当の方との活発な意見が

交換されました。講演後には、今回の講演が今後の相談業務にお役立ていただけるとの声をいただきました。



1. 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウェア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

2. 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は無料。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、約120分程度です。

3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。 電話 03-5649-2285

ダウンウェアの歴史

これから冬に向けて、街中でも見かけるダウンウェアについて、その歴史をひもといて行きたいと思います。

1786年、アルプス最高峰モンブランの初登頂で幕を開けた近代登山。難攻不落と言われたマッターホルンをはじめとするヨーロッパの山々は次々と登頂され、100年後には、ヨーロッパの4,000m級の山は全てが登頂されました。未踏峰がなくなると、岩壁の登攀など、より困難なルートからのアタックや、無謀とも言える冬山へのチャレンジ、そして世界の高峰へと目が向けられて行きました。

ゲースやダックなど水鳥飼育が盛んなヨーロッパ諸国では、ダウンウェアや寝袋類が開発され、冬山装備として登山家達を支えて行きました。1940年代後半には、欧米の羽毛製品を製造するアウトドアメーカーが多数創立、その後は特殊装備としてだけでなく、一般の登山愛好者にも幅広く普及し、ダウンウェア黎明期を飾りました。

日本産のダウンウェアは、アルプス登山を成し遂げた日本の登山家が持ち帰ったものを参考に試作されたと言われています。実用化したのは1953年、第一次マナスル遠征隊が国産ダウン装備を採用したのが最初となります。登山装備だけでなく、1956年から続く南極地域観測隊が

越冬隊員用として、国家事業は国産でという理想のもと、60年の歴史を刻み今に至るまで国産製品が連綿と受け継がれています。

ダウンウェアが一般に着用され始めたのは、アメリカで発祥したバックパッキングブームが到来した1970年代前半のこと。彼らのトレードマークとして着用されたダウンジャケットやダウンベストがトレンドとなり、モコモコのダウンウェアを着た若者達が街中にもあふれるようになりました。

さらに、ファッションとして浸透したのは、1970年代後半から。黎明期の製品は、羽毛の片寄りを防ぐキルティングが施されているのが特徴でしたが、ダウンパックの登場により、その表裏面を覆う別布の選択肢が拡大したのです。つまり、ウール、シルク、麻からレザーなどの高級素材の使用が可能になり、カジュアルからフォーマルまであらゆるデザインへの対応も容易になりました。これを契機に、ファッションアパレルの取り組みが本格化し、総合衣料メーカーの70%以上がダウンウェアを取り扱うまでに成長、原点でもあるアウトドア市場を含めると押しも押されぬ定番衣料品としての地位を獲得したのです。

最近では山歩きや散歩ブームに相まって、薄形・軽量のポケットブルなダウンジャケット、ベストが春・夏でも販売されているように、季節を問わず必需品として注目されています。

ダウンウェアの選び方

軽く、温かく、最近は薄手で超軽量なもの等、さまざまな種類のあるダウンウェア。ファッション性だけにとらわれず、お気に入りの快適な一着を上手に選ぶため、ご購入の際は、しっかりとチェックしましょう。

1 失敗しないダウンウェアの選び方

■ 羽毛の吹き出しはありませんか？

特に縫い目部分に気をつけて！ 大きい羽根だけではなく、細い繊維状になった羽毛も出ていないか、入念にチェック。

■ 縫い目は整っていますか？

生地のはきつれがないか、縫い終わりの処置がきちんとしているか、チェックしましょう。

■ 羽毛はバランスよく入っていますか？

ウェアの中の羽毛が片寄ったりしていないか、チェック！ 台の上においてふんわり元に戻るのかもチェックしましょう。

■ ほこりや嫌な臭いはありませんか？

軽く叩いて、ほこりが出ないか確認しましょう。羽毛の嫌な臭いがしたら洗浄不良かもしれません。

2 確認しましょう

■ ダウンの割合は？

家庭用品品質表示法により、上衣又はコートの詰め物の表示が義務づけられています。ダウンウェアに関しても詰め物の組成と混合率の表示が必要で、一般的にダウン〇%、フェザー〇%と言う表示がなされ、表示の許容誤差は±5%となっています。

ダウン率が高くなるほど、感触は柔らかくなり、フェザー特有のチクチク感を感じにくくなります。ダウン70%以上が、軽くて気持ちよく着られる目安とされています。

■ サイズ、メーカー名、連絡先、製品の取扱い方法、保証内容も確認しましょう。

品質表示		
側生地	表 地	%
	裏 地	%
詰め物	ダウン	%
	フェザー	%
詰め物重量*		kg
表示者連絡先		

取扱いに関する表示記号

*詰め物重量は任意表示です。

3 ダウンウェアラベルについて

日本羽毛製品協同組合では、「ダウンウェアラベル」を発行しております。これは、当組合の品質基準（組成混合率と清浄性に関する4項目）に合格した原料を使用したダウンウェアであることを表します。



4 メンテナンスについて

■ 洗濯方法も確認しましょう。

ダウンウェアの品質表示には洗濯方法が記載されています。表示の方法にしたがってクリーニングを行ってください。生地や副材によっては、家庭での洗濯はもとより、クリーニング店においても洗濯自体ができない製品もあります。ご購入時には、品質表示のお手入れ方法の項目もご確認ください。毛皮などの部分は、取り外せる製品がメンテナンスは楽だと考えられます。

グースとダックの 農場からのレポート



スノーグース

「スノーグース」という小説をご存知でしょうか? 作者はポール・ギャリコ(米国1897-1976)。津波によって転覆した豪華客船、ポセイドン号の乗客の必死の脱出劇を描いた「ポセイドン・アドベンチャー」(1972)の原作者と言った方がわかりやすいでしょう。この原作者の出世作が「スノーグース(白雁)」(1940)なのです。

時は第二次世界大戦中のイギリス、生まれつきの障害から醜い容姿を持つラヤダーという動物好きの画家がいました。彼はその容姿故人目を避け沼地に建つ燈台小屋で一人寂しく動物を相手に生活していました。ある日、フリーザという美しい少女が傷付いた白雁を連れてやってきます。元来人付き合いの苦手なラヤダーですが、白雁の手当をするうち、二人は親しくなります。そして毎年自雁が渡ってくるたびに二人は親交を深めていくのでした。

ラヤダーは次第にフリーザに対する友情が愛情に変化してくるのを感じます。しかし自らの容姿を気にして自分の気持ちを打ち明けることができません。

やがて、戦況は厳しくなり、フランス ダンケルクにおいてイギリス軍がドイツ軍に包囲されてし

まいます。ラヤダーは愛国心を突き動かされ白雁と共に勇敢にもイギリス軍の救出に向かいます。この時フリーザは改めて彼を愛していたことに気づきますが、時すでに遅し、ラヤダーは戦死してしまいます。

共に旅立った白雁はラヤダーの気持ちをフリーザに伝えるかのように誰もいない沼地の燈台小屋に舞い戻って来るのでした。

この小説に触発され、イギリスのロックバンド CAMELが同名のアルバムを制作しました。美しく叙情的な旋律でCAMELの代表作とも言われています。

作中のスノーグースとはホワイトグースを指すものと思われます。ヨーロッパが舞台ですので、品種はハイイロガンを原種とする純白色のエムデングース(Emden Goose)でしょう。エムデングースは大型の白色のがちょうです。特色として生育が早く、肉量が多く美味であり、良質な羽毛が取れることが挙げられます。現実的な話になってしまいましたが、ヨーロッパの人々にとって、ホワイトグースは小説や音楽に登場する位、身近な存在であるということなのでしょう。

羽毛ふとんの基本知識

羽毛ふとんの愛情診断

羽毛ふとんは長年ご使用されることで、汗や脂などの汚れと共に羽毛も損傷し暖かさが低下いたします。定期的なお手入れを行う事で、快適にお使い頂くことができますが、何を目安にすればよいかなかなか分からないもの。そこで、いくつかの質問に答えるだけで、簡易診断できるものをご用意しました。ぜひ、今ご使用の羽毛ふとんをご確認ください。

Q1

現在、ご使用の羽毛ふとんは、3年以上使用している

YES

Q2

NO

クリーニング

Q2

羽毛ふとんのふくらみ(ボリューム)が、購入当初よりなくなってきたと感ずることがある

YES

Q3

NO

クリーニング

Q3

羽毛ふとんが片寄っていたり、羽毛が吹き出している箇所がある

YES

Q4

NO

リフォーム

Q4

羽毛ふとんの生地が色あせていたり、損傷している箇所がある

YES

買い換え

NO

リフォーム

買い換え

既にリフォームをされていたり、傷みがひどい場合は、リフォームしても保温性が十分に得られない事が考えられますので、お買換えをおすすめします。お買換え頂く際は、日本羽毛製品協同組合が定めた品質基準をクリアした製品だけに付けられる安心の印である「ゴールドラベル」が付いたものをお買求めください。

リフォーム

羽毛が傷んでいる場合は、新品の羽毛を足してあげることでボリュームを。ふとん生地が傷んでいる場合は生地を交換することにより、羽毛ふとんの保温性をあげます。リフォームについては、日羽協認定工場のご利用が安心です。お近くの認定工場は、日羽協ホームページでご確認頂けます。

クリーニング

毎日お使い頂くものだからこそ自分でも気付かないうちに、ご購入当初よりボリュームがなくなっていたりふとん生地が汚れていたりする場合があります。定期的なクリーニングをおすすめします。

▶ 詳しくは、日羽協ホームページをご覧ください。 <http://www.nichiukyo.org>



「水鳥の役割」



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。
羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。
今回は、羽毛ふとんの原料だけではなく水鳥の役割の事を…。

羽毛ふとんには大別してダックとグースの羽毛が使用されます。これらの水鳥、生産国では、羽毛原料以外にも大きな役割を果たしています。身体が大きく食用に適しているグースは欧州で多く飼育されています。また、食肉となる前に一部の水鳥は親鳥として卵を産むという大事な役割があります。ダックは多い種では年間で約200から250個の卵を産みます。これは個体数を増やすことが最大の目的ですが、一部は食用の卵として消費されます。日本では卵と言えば鶏の卵ですがダックの飼育数の多い中国では当たり前のようにこの卵が食卓に並びます。

今、世界で一番多くの羽毛原料を産出している国は中国です。世界最大人口を抱える国で、国民の食を賄うにはそれ相応の食材が必要です。それに一役買っているのがダックなのです。農業国とダックといってもなかなか結びつきません。羽毛ふとんでは羽毛の種類としてダックとグースという呼称は普通に使われますが、正確にはダックとはアヒルのことで、このアヒルと鴨を交配させ家禽化されたものを合鴨といいます。水田に多い柔らかく筋のない雑草を好んで食べ、また害虫を駆除するため、稲などの水田に放す合鴨農法が行われています。農薬、化学肥料などがまだ無い約1000年も前から中国揚子江から南のアジアモンスーン地帯で行われてい

ました。その後日本にも伝わり、戦国時代には敵の夜襲を知るために行われたらしく、主に近畿地方を中心に伝承され、戦後しばらくは食糧難克服のために各地で実施されていました。しかし経済高度成長とともにすたれて行ったといわれています。中国の奥地では今でも水田に鴨を入れたこの農法を継承しているところがあるようですが、昔のようにどこを見ても水田に鴨がいるような風景は近年見るのが少なくなってきました。これも化学肥料や農薬の普及という効率化された時代の流れでしょうか。

「百姓」とは、米を作り、野菜を作り、鶏や鴨を育て、小屋も作るなど、百の仕事をこなすことから百姓というそうです。お百姓さんは、自分の家族が食べるものを作るのが本来の姿だそうで、大切な家族が食べるものだからおいしくて安全な作物を作りたいというのは当然なことです。時代が変わっても農薬や化学肥料を使わない合鴨農法はまさに理想的な農法で、鴨がいる水田は安全といえます。鴨さん頑張ってください。

